

災害時の事業継続性強化に向け 約半年でDR環境を再構築

ストレージ同期とSRMをベースに独自の仕組みを追加

背景

災害対策に関する意識の高まりや規制強化の流れに対応し、DR環境を再構築する。複雑だったシステムの復旧作業を大幅に改善するとともに、幅広い業務を短時間で確実に再開できるようにしたいと考えた。



三井住友アセットマネジメント株式会社
事務システム戦略部
シニアマネージャー
岡本 貴氏



三井住友アセットマネジメント株式会社
事務システム戦略部
マネージャー
熊谷 貴夫氏

ソリューション

ストレージによるデータ同期機能とサーバー仮想化ソフトのDRオプションをベースに新DR環境を構築。さらに同環境を利用して、業務を確実に短時間で再開できるように、データの整合性を確保する独自の仕組みを追加した。

成果

新日鉄住金ソリューションズの支援により、約半年でDR環境を再構築することができた。データセンターが被災して機能を停止した場合も31システム(110サーバー)をDR環境で起動し、10時間以内に業務の再開が可能である。

災害対策意識の高まりなどに対応し、DR環境の再構築を検討

高品質の資産運用サービスを提供することで、経済・社会の発展への貢献を目指す三井住友アセットマネジメント。「お客様第一主義」の経営理念のもと、多彩な運用スタイルのサービスを顧客へ提案している。

同社が災害対策に関する意識の高まりや規制強化の流れに対応するため、DR(災害復旧)環境の再構築を検討し始めたのは2009年ごろである。2007年にDR環境を構築したが、同環境にはインターネットにアクセスできない、システムを復旧する手順が複雑であるといった課題があった。時々刻々と変化する金融市場の情報を把握して的確な投資判断を行うにはわずかなシステム停止も影響が大きい。同社はデータセンターが災害で機能を停止した場合も、短時間で業務を確実に再開できるDR環境を求めた。

ストレージ同期と仮想化ソフトのDRオプションを活用

DR環境再構築の検討中に東日本大震災が発生し、三井住友アセットマネジメントは、プロジェクトのスタートを決断。再構築を支援するITパートナーとして新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)を選定する。

新DR環境は、統合ストレージ「HP 3PAR F400」のデータ同期機能と、サーバー仮想化ソフトのDRオプション「VMware vCenter Site Recovery Manager(SRM)」をベースに構築した。本番環境の統合ストレージにある業務システムと業務データをDR環境のストレージと同期するとともに、システム起動をSRMで効率化。さらに業務を短時間で確実に再開できるよう、データの整合性を確保する独自の仕組みを追加した。

RPOやRTOが明確化、10時間以内に業務を確実に再開

プロジェクトは急ピッチで進んだ。震災に伴う生産・物流の混乱で、DR環境に導入する機器類や、本番環境とDR環境間のデータ同期に使うネットワークの導入に苦勞したほか、技術的にはネットワークを効率よく使うためのデータ同期タイミングの最適化などに時間をかけたが、プロジェクト開始から約半年後の2011年10月に本格運用を開始している。

成果は大きい。DRサイトの再構築後に行った複数回のリハーサルでは、課題だった業務再開までの時間が劇的に短縮。サーバー仮想化環境で稼働する31システム(110サーバー)を利用する業務については、災害などにより本番環境のシステムが停止してから10時間以内にすべてが再開できるようになるなど、RPO(目標復旧ポイント)およびRTO(目標復旧時間)の明確化が実現した。

Key to Success

三井住友アセットマネジメントが災害時の事業継続性強化に取り組んだ背景には、災害対策に関する意識の高まりや規制強化の流れがあった。

事務システム戦略部 シニアマネージャーの岡本貴氏は「当社はおお客様の資産をお預かりして、時々刻々と変わる市場の情報を基に投資タイミングを判断しています。業界の規制は年々厳しくなっていますし、情報システムは災害時でさえ1秒も止められないという意識が高まっていました」と語る。

同社は2007年、災害時に予備のシステムを稼働させて業務を再開するためDR環境を構築していたが、いくつかの課題を抱えていたという。

「当時のDR環境ではインターネットに接続することができず、電子メールやホームページによる情報提供ができませんでした。また、システムの優先度ごとに別々の方法で業務データを保護していたため、復旧作業が複雑になっていました」(岡本氏)。

DR環境の再構築は、東日本大震災を契機にスタートした。経営層から「半年で完成させよ」との指示があったという。三井住友アセットマネジメントが同プロジェクトのITパートナーとして選定したのがNSSOLである。

事務システム戦略部 マネージャーの熊谷貴夫氏は選定理由を「DR環境再構築の前に、サーバー仮想化環境への移行プロジェクトがあり、NSSOLに柔軟性の高い統合ストレージの導入を支援いただきました。DR環境再構築では、その統合ストレージを活用することがほぼ固まっていたうえ、NSSOLはストレージのデータ同期技術や、サーバー仮想化技術をシステム研究開発センターで研究するなど、最新の技

術に精通しています」と語る。

短工期ながら、三井住友アセットマネジメントは新DR環境に独自の仕組みを追加した。

「単にDR環境で予備のシステムを自動的に立ち上げるだけでなく、業務を確実に再開することを目標にしました。製品の機能をそのまま使うだけでは、同期した業務データの整合性が損なわれるといった問題があります。NSSOLの皆さんとは、この問題意識を共有し、共に解決策を探っていくことができました」と語る。

約半年で新DR環境の運用を開始 幅広い業務を10時間以内に再開

DR環境の再構築プロジェクトは計画通り約半年で終了した。

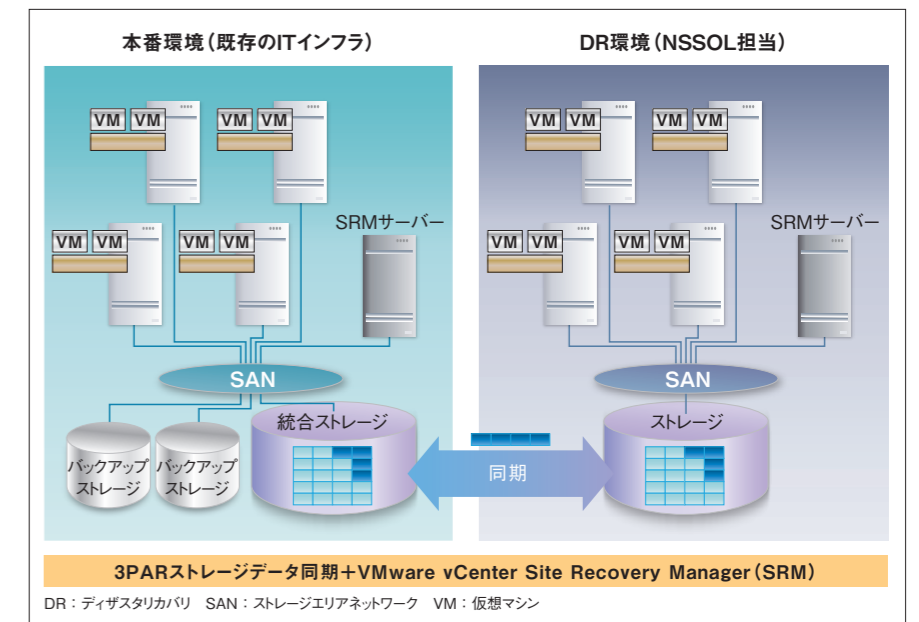
今回のプロジェクトの成果について岡本氏は「RPOとRTOが明確になりました。導入後、リハーサルを行いました。DR環境のシステムを利用する業務については10時間以内に確実に再開できます」と述べる。

熊谷氏は「予備のシステムを立ち上げるだけならもっと短時間で済みますが、業務ですぐ利用できるように、同期した業務データに対して後処理などを行います。国内金融機関でもここまでの仕組みを備えているところはないでしょう」と述べる。

DR環境の構築を支援したNSSOLに対する信頼は厚い。

岡本氏は「NSSOLのエンジニアはシステム構築現場の場数を踏み、豊富な経験と知見を持っています。これまでご支援をいただいたITベンダーの中でも一番安心して仕事を任せることができました」と語る。

■三井住友アセットマネジメントが再構築したDR環境の概要



■コアテクノロジー

BCP(事業継続計画)、DR(災害復旧)、統合ストレージ、データ同期、仮想化

■システム概要

- サーバー仮想化ソフト：VMware vSphere
- DRオプション：VMware vCenter Site Recovery Manager
- ストレージ：HP 3PAR F400